

劇団フライングステージ第43回公演

# LIFE, LIVE ライフ、ライブ

関根信一

## 【時】

基本となる時間は2015年8月から2017年11月。

## 【ところ】

東京。

## 【登場人物】

原田計馬（はらだかずま）  
稲葉祐治（いなばゆうじ）  
西村 悟（にしむらさとる）  
下島尚之（しもじまなおゆき）  
塚田雅人（つかだまさと）  
原田菜摘子（はらだなつこ）  
御子柴恭子（みこしばきょうこ）  
中野友理（なかのゆり）  
原田美幸（はらだみゆき）  
伊集院恵子（いじゅういんけいこ）  
市役所の職員1  
市役所の職員2  
医師

## 【舞台】

パネルの間から青空がのぞいているからんとした空間。  
中央奥に少し高くなったスペース。  
イスが7脚置かれている。  
小道具は具体的なものは登場しない。

\* \* \* \* \*

2017年8月。

原田計馬が登場する。

計馬 どうも、こんばんは。原田計馬です。行政書士をしています。今日は僕が仕事上で出会ったいろいろな出来事をみなさんにお話しようと思います。あ、もちろん守秘義務があるので、内緒です。この何年間で僕が出会った、出くわしたあれこれを、みなさんに聞いてもらえたらと思います。行政書士ってなんだってかんじですけど、ひと言で言えば、役所へ出す書類を作成する人です。いろいろ面倒なきまりや書式があるわけで、それをお手伝いする、そんな仕事。弁護士、税理士、司法書士、行政書士といわゆる「士業」のうちの一つなんですけど、どうなんでしょうね。書類の作成ですから、自分でできれば、どうにかなるものばかりなわけです。じゃあ、存在価値は何かっていうと、時間の短縮とか、ノウハウとか、あと普通に行っても話がおおらない役所との交渉ですかね。そんなことをやっています。えーと、四十二歳です。もともとは弁護士をめざしてたんです。大学は法学部、大学院まで行って、まあ、ありがちな就職難民。司法試験に三回落ちて、あきらめました。知り合いの法律事務所を手伝いをしながら、行政書士の資格をとって今の仕事をしています。父親には、ずいぶんうるさく言われました。あきらめるなって。ずっと公務員をしていたんです。司法試験を目指したこともあるらしくて。でもね、そんな自分の夢を託されても。今は弁護士余ってて、司法試験通っても、楽な生活が待ってるわけじゃない。そんな昔の話だつて言っても納得しない。六年前に死んでくれて、正直ほつとしました。2015年11月から渋谷区、世田谷区で同性パートナーシップ申請ができるようになりました。そんな申請の手続きも請け負っています。その第一号として、自分の申請をしようと思つたんですよ。人のことより、まず自分のことだろうって。あ、僕はゲイなんです。で、その相手に相談をしました。二年前、2015年の夏です。

2015年夏。

計馬のパートナー、稲葉祐治が登場する。電話のやりとり。

祐治 何、めずらしいね。電話。

計馬 うん、直接話そうと思って。

祐治 ちょうどよかった。実は俺も話あって。

計馬 そうなんだ。何？

祐治 いいよ、そっちからで、何？

計馬 今年の十一月から、渋谷区と世田谷区で同性パートナーシップ申請を受け付けるじゃない。

祐治 うん、それで？

計馬 俺たちもどうかかなと思って。

祐治 できるの？

計馬 できる。二人とも世田谷在住だし。

祐治 そうじゃなくてさ、なんでわざわざ？

計馬 これから、同性パートナーシップ申請する人が増えると思うんだよ。アメリカじゃ、何万人って人が同性婚してる。ビジネスチャンスじゃないかって。

祐治 何言ってるかわからない。

計馬 だから、人のことより、自分のことっていうかさあ。付き合つて、四年目だし、こ

これからのこと考えたいって言ってたじゃない。  
それどころじゃないんだって。

計馬 なに？

祐治 親父が倒れた。

計馬 大丈夫なの？

祐治 わからない。仕事中に蔵で倒れて、意識不明だった。これから、実家帰るんだよ。

計馬 わあ、大変だ。お大事に。

祐治 それでさ、もらった電話で悪いんだけど、そういうのなしにしてもらっていいかな。

計馬 そういつのつて？

祐治 だから、同性なにかつてやつ。

計馬 ああ、わかった。じゃあ、あらためて。お父さん落ちついたら。

祐治 そうじゃなくてさ……。俺、長男だし。

計馬 何、継ぐの？ 味噌蔵？ 継がないから、東京で今の仕事してるんじゃないの？  
絶対ないって言ってたじゃない。

祐治 そうなんだけど、お袋に泣きつかれてさ。いろいろ聞くと、俺が継ぐしかないみたいでさ。それで、俺たちのことなんだけど……

計馬 うん。

祐治 いや、また改めて話そう。

計馬 何？

祐治 いや、今はいいや。とりあえず、実家帰ってから、また電話する。

計馬 いいよ、今、言いなつて。

祐治 いや、だから、今度ちゃんと……

計馬 話すつて何？ 話し合おうじゃないんだ。だったら、今言えればいい。今、聞くから。

祐治 えーと……

計馬 もしかして、別れようとかそういうこと？

祐治 まあ、そんなかんじ。

計馬 何だよ、そんなかんじつて。そんな簡単に？

祐治 だから、ちゃんと話そう、あらためて。

計馬 遠距離とかそういうんでもないんだ。

祐治 遠距離なんて無理だつて。実家なんだから。

計馬 それをどうにかしようつて話じゃないわけ？ そうなんだ？ そういうことなんだ。

祐治 ちよつと、黙つて聞けよ。

計馬 いいよ、話ならもう聞いたから。じゃあね。

計馬、電話を切る。

祐治、退場する。

計馬 それでおしまい。わかつてるんです。悪い癖だつて。でも、しょうがない。向こうから連絡があるだろうと思つて待つてたんですけど、何もなくて、こつちから連絡するのもおかしい気がして、そのままフェイドアウトです。「きのう何食べた？」つて

漫画知ってますか？ ゲイの弁護士と美容師のカップルが主人公。儉約家で料理好きの弁護士が料理をつくる場面と二人の日常が描かれてる。連載は週刊モーニング、青年誌ですよ。青年誌でゲイのカップル。それだけじゃなくて、この二人、四十歳からスタートして、連載と一緒にとしを取って、今じゃアラフィフ。五十歳なんです。五十歳のゲイのカップル。僕が若い頃には考えられなかった。でも、実際、そういう人はたくさんいるわけです。自分がその年頃に近くなって初めて気付いたんですけど。そういうものになりたいなって。なれたらいいなって思ったんですけど。うまくいかなかった。でも、いいんです。なりたい人、なれる人のお手伝いができた。人のことより自分のことじゃなくて、自分のことより人のこと。これからそれで行こうと決めました。よし！

場面は変わって、法律事務所の給湯室。

昼休みの終わり近い時間。

計馬は弁当箱を洗い始める。

計馬同僚の女性、御子柴がやってくる。

御子柴 原田くん、えらいよねえ、毎日、お弁当箱洗って。

計馬 このくらいはしないと、怒られるんですよ。

御子柴 相方さん？

計馬 お袋です。

御子柴 なんだ、愛妻弁当的な何かだと思ってた。

計馬 御子柴さん、シュークリーム食べます？

御子柴 シュークリーム？

計馬 さっき、外出たついでに買って来たんです。みんなの分はないんですけど、よかつたら。食べログで星3・5の評判の店らしいですよ。

計馬、冷蔵庫からシュークリームを取り出す。

御子柴 ありがとう、じゃあ、後でいただく。

計馬 じゃあ、ここ入れておくんで。

計馬、シュークリームを冷蔵庫へしまつ。

御子柴 原田くん、リストラの話、聞いた？

計馬 ええ、なんとなく。若い新人を採用するのかなんとか。

御子柴 所長から話あった？

計馬 え、何ですか？

御子柴 あ、ごめん。聞かなかったことにして。

計馬 いやいや、何ですか？

御子柴 原田くん、リストラの候補らしいよ。

計馬 ええ？ まじっすか？

御子柴 うん、まじ。独身だし、年齢もそこそこだし。  
計馬 あちやー。

御子柴 どうする？

計馬 どうするって、所長と話しますけど。

御子柴 ふーん、どうせやめなきゃいけないんなら、いい条件でやめた方がよくない？

計馬 は？

御子柴 独立しない？ 私と一緒に？

計馬 は、なんなんですか、突然。

御子柴、給湯室の外を確認する。

御子柴 今、担当してる仕事をそのまま持つてやめるの。外注扱いになるけど、社員としてやとつておくよりは、いいはずだから。

計馬 そんなことできるんですか？

御子柴 できるできる。あなたは、行政書士として、私は司法書士として、一緒に事務所立ち上げましょう。

計馬 ちよつと考えさせてください。

御子柴 所長から話があるまえに決めておいた方がいいって。

計馬 でも、そんなに急に。

御子柴 今年の十一月からLGBTの同性パートナーシップ申請の受付が始まるでしょ。

渋谷と世田谷で。

計馬 ええ、そうですけど。

御子柴 その申請の手続きをするっていえば、事務所の特色、売りになるんじゃない？

計馬 なんて僕なんですか？

御子柴 だって、当事者でしょ。

### 間

御子柴 ごめんなさいね。私、見ちゃったんだよね。

計馬 何をですか？

御子柴 ナインモンスター？ ゲイの人たちの出会い系アプリ。

計馬 何してるんですか？

御子柴 嘘の情報登録したら、いやだ、こんなところに原田さんがつて。顔写真はなかったけど、間違いない。半分にトリミングした横顔、後ろ姿、それから……

計馬 ああ、もういいです。わかりました。

御子柴 じゃあ、きまり？

計馬 ええ。

御子柴 じゃあ、行きましょう。所長のところへ。

計馬 え？

御子柴 悪いようにはしないから。

計馬 はあ。

御子柴、退場。

計馬 独立の話はほんとに何の問題もなく進んで、僕と御子柴さんは、2015年の9月、新しく事務所をかまえることになりました。御子柴原田司法行政書士事務所。経堂駅から徒歩5分のマンションの一室。メインの事務スペースと奥にもう一部屋。トイレと簡単なキッチン。契約は御子柴さんの名義。僕は月々の家賃と光熱費を折半。収入はそれぞれの出来高ということ、二人の間で覚え書きを作りました。さて、開業の手続きをすませて、事務所開きをささやかにした後、すくと暇になりました。ええ、暇です。ウェブページをつくって、広告も出したんですけどね。仕事そのまま持つてこれて本当によかったです。そうじゃなかったら、全然やってけない。大丈夫なのか？

御子柴、登場。

御子柴 まあ、初めはこんなもんだって。

計馬 そうですよ。

御子柴 同性パートナーシップ申請の相談きた？

計馬 いいえ、まだ。

御子柴 一件も？

計馬 一件も。

御子柴 やつぱり、ウェブの案内に入れよう。ゲイの行政書士が相談に乗りますって。

計馬 ちょっと待ってください。

御子柴 だって、元彼と申請するつもりだったんでしょ。往生際が悪いわね。

計馬 ウェブで公開するってことは、カミングアウトすることじゃないですか。

御子柴 だめなの？

計馬 だめですよ。だって、誰にも言っていないのに。

御子柴 いい機会じゃない。それに、二人でやってるんだから、どつちのことかわからな  
いはず。

計馬 ゲイの行政書士って言ったたら、僕しかないじゃないですか。

御子柴 じゃあ、当事者の「専門家」って表現ならいいですか？！

計馬 そうですね。それなら、まあ。

御子柴 じゃあ、決まり。桐島くん連絡して修正してもらおうから。

計馬 僕、メールしましょうか？

御子柴 私、やっておく、他にもあるんで。じゃあ、出かけてくるね。許可の書類、つく  
つておいて。明日都庁に行けるように。直帰するかもしれないから、終わったら電話  
入れるんで。

計馬 はい。行ってらっしゃい。

御子柴、出て行く。

計馬 こんな日が続きました。同性パートナーシップ申請の相談はありません。それでも、一応、つくってみたんです。シミュレーションっていうか、サンプルを。異性間の事実婚のための書類をアレンジするかたちで。つくりながら、もし自分だったらってことを考えました。やってけるのかなって。気がついたんです。相当にハードルが高いつて。今さら何言ってるんだってかんじですけど、結婚と同等の関係であることを証明する書類なわけです。結婚ですよ。結婚。なんで僕たちが別れたのか考えました。そういう話、全然してなかったなって。そういう話をしようと思っただのになつて。まあ、いいや。さて、そんなある日のことです。

玄関のチャイム。

計馬 (ドアホンに) どうぞ。

中野友理が入って来る。中年のレスビアン。たくましい。

計馬 どうしたんですか？ 中野さん。

友理 ちょっとご挨拶。事務所開き来れなかったから。いいところだね。家賃高いんじゃない？ だいじょうぶ？

計馬 まあ、なんとか。お茶いれます。

友理 いいから、ちょっと寄っただけなんで。それで、遺言状、ちょっと修正することにしたんで、見ておいてもらっていいかな。

友理、書類を取り出す。

計馬 修正されたんですか？

友理 うん、相手の娘のことがあつてね。やっぱりちゃんとしようって英子が。後で確認しておいて。そいじゃね。

友理、立ち上がる。

計馬 ああ、中野さん、同性パートナーシップ申請されたりしないんですか？

友理 (立ち止まって) うちはいいかなって。英子もまだいいんじゃないかって。公正証書つくつたし、遺言状も用意するつもりだし。申請したからって、法的強制力があるわけじゃないし、見返りはなんだってことよね。だから、今はいいかなって。

計馬 そうですか。

友理 独立のお祝いに依頼できたらと思っただけど、悪いね。

計馬 そんなお気遣いなく。

友理 そのかわり宣伝させてもらってるから。ゲイの行政書士がいるよって。

計馬 ちょっと待ってください。

友理 何？

計馬 僕話してきましたっけ？

友理 何？

計馬 だから、僕がそうだったこと。

友理 違うの？

計馬 違いますけど。あれ……

友理 前に言ってたじゃない。今、付き合ってる相手はいるのかって聞いたら、別れたばかりだった。

計馬 でも、相手が男だったことは……

友理 実家継がなきゃいけないって話なんですよ。やっぱり、そうなんだと思って聞いてたけど。

計馬 やっぱりって、ばれてます？

友理 うん、そうだね。一回りしてばればれてかんじかな？

計馬 そうなのか……

友理 いいんじゃないの。独立したんだし。ゲイの行政書士。いいと思うよ。そういう人いてくれたらうれしいから。自分のこととして考えてくれるんだって。自信持ちなさいよ。まだまだ大丈夫。あきらめちゃだめ。

計馬 あきらめてないですよ。

友理、ぼんやりと計馬の背後を見ている。

計馬 どうかしました？

友理 ううん、なんでもない。

計馬 あ、中野さん、靈感があるって本当ですか？

友理 靈感みたいなもんならね、ちよつとだけ。

計馬 何か見えたりしました？

友理 誰もいない、だいじょうぶ、何でもないから。じゃあね。

友理頭を下げる。

計馬も。

友理、計馬の後ろの何かにもう一度会釈して出て行く。

計馬は気付かない。

計馬 ゲイの行政書士か……

電話が鳴る。

計馬、受話器を取る。

計馬 はい、御子柴原田司法行政書士事務所です。同性パートナーシップ申請？ はい、やっていますよ。ええ、はい。それでは、一度、こちらにおいでいただけますか。こちらから伺ってもいいんですけど。これからですか。ええ、いいですけど。わかりました。はい。お名前をうかがえますか？ 下島さん。はい、それでは、お待ちしています。



計馬、電話を切る。

計馬 よし！ やった！ って、まだ何もしてませんけど。

計馬、ジャケットを羽織る。襟の行政書士のバッジを確認する。  
玄関のチャイムの音。

計馬（壁際にインターホンに）どうぞ。

下島尚之と塚田雅人がやってくる。

尚之は仕事の途中のような雰囲気、雅人はカジュアルなかんじ。

尚之 どうも。

計馬 原田計馬です。

計馬、二人に名刺を渡す。

尚之（名刺を出して）下島尚之です。

雅人 名刺ないんで。すみません。塚田雅人です。

計馬 どうぞ、おかけください。

尚之と雅人、椅子に腰を下ろす。

計馬も向かい合って座る。

計馬 同性パートナーシップ申請ということで。

雅人 はい。

計馬 ご存じかと思いますが、渋谷と世田谷で同様の取り組みが始まります。渋谷区は同性パートナーシップ申請、公正証書を二種類作成して、戸籍謄本を揃えて提出します。世田谷区は、同性パートナー宣誓。書類は特に必要ありません。どちらも法的拘束力はありませんが、渋谷区は書類を作成する都合上、費用がかかります。

雅人 いくらくらいかかるんですか？

計馬 大体7万円ほどかと。世田谷は無料です。

雅人 そうなんだ。

計馬 お住まいは？

雅人 渋谷区本町です。尚ちゃん、あ、下島さんのところに僕もいるんで。

計馬 住民票は？

雅人 まだ移してません。

計馬 住民票上はどちらに？

雅人 世田谷ですけど、梅ヶ丘なんです。

計馬 じゃあ、渋谷世田谷どちらの申請も可能ですね。どうされますか？

雅人 どうする？

尚之 (計馬をぼんやり見ていたが) え？

雅人 お金かかるんなら世田谷でもいいんじゃない？

尚之 ああ。

雅人 それはそれで大変か。引越してお金かかるし。今のままでいいんじゃない？

尚之 ああ。

雅人 じゃあ、渋谷で。

計馬 わかりました。えーと、うちのことはウェブでお知りになった？

雅人 はい。どうせ、頼むなら、ゲイの行政書士さんに頼んだ方がいいって。

尚之 ええ。

計馬 は？ ウェブサイトにそんなことが？

雅人 はい、違うんですか？

計馬 いや、違いますけど。

計馬、スマホでネットにつなぎ、ウェブサイトを見てみる。

計馬 うわ。なんでだよ。

雅人 どうかしました？

計馬 いえ。

雅人 中野友理さんにもゲイの行政書士がいるって教えてもらって。

計馬 ああ、中野さん。お知り合いですか？

雅人 ええ、いろいろ相談に乗ってもらってるんです。

計馬 じゃあ、僕のことも。

雅人 はい、四年つきあった相手と別れたばかりだって。

計馬 そんなことまで。えーと、お二人はもう長いんですか、おつき合いを始めて。

雅人 もうじき3年です。

計馬 そうですか。

雅人 父親にゲイだってことがばれてしまって、付き合ってることも。結婚もできない関

係なんか認めないって。アメリカの同性婚の話にしても全然わかってなくて、

じゃあ、いいよ、僕も結婚するって。

尚之 まあ、勢いなんですけどね。

雅人 僕は真剣だよ。

尚之 わかってるって。必要な書類とかあるんですよね。

計馬 ええ、ちよつとお待ちください。

計馬、奥に書類を取りに行く。

尚之、立ち上がって、計馬の近くへ。

計馬、席に戻って、雅人に書類を渡す。

計馬 こちらに一通りの必要書類をまとめています。まず、戸籍謄本をそれぞれ取っていただく。それから、公正証書を2種類作成します。合意契約に基づく公正証書、任意

後見契約に基づく公正証書。これらをお二人分それぞれ作成しますので、計4通。それを渋谷区役所に提出します。

雅人 それをつくつてもらえるんですか？

計馬 作成のお手伝いはしますが、基本的にお二人のことなので、内容については話し合つて決めていただくことになります。

雅人 そうなの？

計馬 はい。あ、そうだ。

計馬、また立ち上がって、書類を取りに行く。

尚之も、また立ち上がって、計馬のそばへ。

計馬（書類を尚之に渡して）こちらがサンプルです。お金のこと、収入や支払いについて、それから家事や親の介護について、それから、どちらかが亡くなった場合のことなども、書類にしてまとめておきます。

雅人 普通の結婚だったら、別にこういうのいらんだよね。めんどくさいな。

計馬 男女の結婚でも、結婚契約書をつくる場合はありますし、作っておいた方が先々困らないですよ。取り決めに違反した場合はどうするかということまで盛り込めませんから。

雅人 浮気とか？

計馬 そうですね。

尚之 そんなに細かく書かなくていいんじゃない？

計馬 まあ、書いてみてください。二人で納得がいくようにまとめてもらえたら、こちらで書式を整えますので。

雅人 わかりました。じゃあ、考えよう、二人で。

尚之 ああ。

雅人 パートナーが急に死んで、ホームレスになった友達がいるんですよ。こういう書類何もつくつてなかったから。

計馬 それは大変だ。今は、どうされてるんですか？

雅人 いろいろあつて、僕の家に住んでるんですけど。

計馬 いろいろ？

尚之 じゃあ、よろしくお願いします。

計馬 はい。費用についてもそちらに細かく書いてあるので、確認しておいてください。

雅人 わかりました。行くよ、尚ちゃん。

尚之 ああ。

二人、出て行く。

計馬 よし！

計馬、奥へ書類を置きに行く。

玄関のチャイム。

計馬（出て来てドアホンに）はい、どうぞ。

尚之が入ってくる。

計馬 どうされました？

尚之 スマホ忘れたみたいで。

計馬 スマホ？

二人、スマホを探す。

計馬 ないですねえ。

気がつくのと、尚之が近くにいます。

計馬 あの、何か？

尚之 ひさしぶり。

計馬 は？

尚之 とぼけちゃって。まあ、いや。

計馬 あの何のことですか？ お会いするの始めてだと思っんですけど。

尚之 大久保のボルケーノ。やだな……

計馬 あの、それって……

尚之 ハッテン場、前に会ったじゃない。先月、たしか金曜の夜に。

計馬 えーと、それ、人違いだと思いますよ。

尚之 そうなの、だって……（計馬をじっくり見て）間違いない。

計馬 僕、そういうところ行ったことないんで。

尚之 またまた。

計馬 ほんとうです。

尚之 別にどうしようってわけじゃないからさ。まあ、別にどうかしてもいいんだけど。

計馬 下島さん、同性パートナーシップの申請されるんですね、塚田さんと？

尚之 ちゃんと書いておけばいいんでしょう？ 浮気はばれなきゃしてもいいって。違う？

計馬 それはそうですけど。二人が納得できるなら。

尚之 まだ、誰もいないんだよね。どう、また。

計馬 あの……

玄関のチャイム。

計馬（ドアホンに）どうぞ！

菜摘子が入って来る。

計馬 お前、何？

菜摘子 家じゃ話せないから。

計馬（尚之に）妹です。

尚之 どうも。あ、スマホ、ありました。（腰のポケットから取り出す）それじゃ、また。

尚之、計馬の肩に軽くさわって、出て行く。

計馬、腰を下ろす。

菜摘子 お客さん？

計馬 そう、たすかった。

菜摘子 友達じゃないの？

計馬 何だよ？

菜摘子、スマホを取り出して、計馬に差し出す。

菜摘子 ゲイの行政書士って、お兄ちゃんのこと？

計馬 それは……

菜摘子 御子柴さんじゃないよね。御子柴さん、司法書士だから。

計馬 それは、ウエブを作った人が間違えて。

菜摘子 どう間違えたの？

計馬 いや、当事者の専門家って修正するはずなんだけど。

菜摘子 じゃあ、違うの？ お兄ちゃんはゲイじゃないの？

計馬 ……違うわい。そうだよ、俺はゲイだ。

菜摘子 やっぱり……

計馬 悪かった。ずっと黙ってて。でもさ、いちいち言うことでもないと思って。普段、そんなに話すわけでもないのに、わざわざカミングアウトする必要もさ……

菜摘子 一緒に住んでるんだよ。

計馬 関係ないじゃん。

菜摘子 あるよ。もしかして、お母さん知ってるの？

計馬 知らない。

菜摘子 お父さんも？

計馬 言うわけないだろ。

問

計馬 なんだよ、わざわざ、そんなこと確かめに来たのかよ？

菜摘子 ……

菜摘子 中野友理さんって知ってる？ レズビアン。

計馬 え、うん。遺言状つくった。前の事務所の時からのつきあいだけど。何、知り合  
い？

菜摘子 うん。

計馬 え、じゃ、もしかして、お前？

菜摘子 そうだよ。友理さんに、ゲイの行政書士がいるって言われて、何かあったら相談してみたらって。

計馬 そうだったのか。何だよ、早く言えよ。

菜摘子 人のこと言える？

計馬 母さん知ってるのか？

菜摘子 知らない。もちろんお父さんにも（計馬の様子を見て）どうかした？

計馬 うん。遠いと思ってたお前が、急に身近にかんじられるよ。

菜摘子 何言ってるの？ 私、家、出るからね。

計馬 何だよ、急に。

菜摘子 お母さんから聞いてない？

計馬 うん。この頃、会ってないし。なんでだよ？

菜摘子 だってお兄ちゃん結婚しないんでしょ？ 女の人と。

計馬 うん。でもさ……

菜摘子 私はそこに望みを掛けてたわけ。でも、ないんだってことがはつきりしたから。

計馬 母さん、納得してるのかよ。

菜摘子 まあね……

二人の母親、原田美幸が登場。

場面は原田家のダイニング。

美幸 職場が変わるならしかたないけど、うちから通えないの？

菜摘子 無理無理。夜勤もあるし、通勤ラッシュほとんどにつらくて。

美幸 ケアマネージャーの資格あるんでしょ？ もっと楽になるんじゃないの？

菜摘子 そうもいかないんだって。だから、来週からは、お兄ちゃんと二人で、よろしくね。

美幸 お兄ちゃん、知ってるの？

菜摘子 後で話す。

美幸 ああ、気まずいな、お兄ちゃんと二人ぐらし。私も一緒に行っちゃだめ？

菜摘子 何言ってるの。だめだよ。部屋狭いんだから。お母さんだって、まだ仕事あるでしよ。

美幸 もうじきほんとに定年だもん。なんなら、すぐにやめて、菜摘子と一緒に住むことにしてもいい。

菜摘子 このうちどうすんのよ？

美幸 お兄ちゃんがいればいいんじゃない？

菜摘子 お兄ちゃんの婚活がんばるんじゃないの？ 跡継ぎ、生んでもらうんでしょ？

美幸 私は別にお兄ちゃんじゃなくてもいいの、菜摘子が結婚してくれても。

菜摘子 私はいいから。

美幸 よくないでしよ。やだ、もしかして、そういう人と一緒に暮らすの？ だったらち

ゃんと言つてよ、反対しないから。

菜摘子 そういうんじゃないから。ねえ、お母さん、老後のこととか考えてる？

美幸 考えてるよ。菜摘子と菜摘子の旦那さんと菜摘子の子どもと一緒にって。

菜摘子 それ、お兄ちゃんじゃだめなの？

美幸 だめだめ。うまくやってく自信ない。

菜摘子 そんなことないって。

美幸 だって、そういう人、一度もいたことないじゃない。

菜摘子 御子柴さんは？

美幸 だめだめ。絶対無理。

菜摘子 だよ。

美幸 職場の話してくれたじゃない。一人暮らしのお年寄りのこと。身寄りがなかったり、あつても、めつたに会いに来ないから、いつも淋しそうにしてるって。そういうのほんとにひとごとじゃなくて。

菜摘子 そんな、お母さんはだいじょうぶだつて。

美幸 考え直すわけにはいかないの？

菜摘子 ごめんね、もう決めちゃったから。

美幸 そう。わかった。

美幸、退場する。

計馬 母さん、お前のこと頼りにしてるんじゃない。

菜摘子 なんで、私ばかり？ 女だから、介護の仕事してるから。いいように使おうと思ってるじゃない？

計馬 お前だって、父さんや母さんの老後の面倒見るのにいいと思うって、今の仕事選んだんだろ。

菜摘子 私38だよ。もういいかげん好きにさせてほしいよ。お兄ちゃん、好きなように生きてるんですよ。ゲイの行政書士だなんて言っちゃって。

計馬 それは俺が言おうと思っただんじゃない。

菜摘子 言いたくても言えない人間もいるんだからね！

問

計馬 わかったよ。じゃあ、母さんのことはなんとかするから。

菜摘子 うん。

計馬 引越し手伝うよ。

菜摘子 いい、業者に頼んだから。

計馬 保証人、どうした？ もしまだなら。

菜摘子 だいじょうぶ。知り合いに頼んだから。

計馬 そうか。

菜摘子 ありがとうね。じゃあ。

菜摘子、出て行く。

計馬、電話する。

計馬 御子柴さんの携帯ですか。原田です。ウェブの案内の件、もしかして確信犯でゲイの行政書士ってしてました？ それで、そのままにしておいてもらっていいですか。ゲイの行政書士のままで。さつき、同性パートナーシップ申請の依頼がありました。それから、今日、早いんですけど、これで帰ります。よろしく願います。

計馬、退場。

場面は変わって、尚之と雅人の部屋。

二人で公正証書の内容を考えている。

尚之 じゃあ、家賃と光熱費と食費は半分ずつ。財布はそれぞれということ。

雅人 うん。

尚之 大丈夫なの？ 派遣切りにあったりしない？

雅人 だいじょうぶ。その時はその時。

尚之 それと財産だけど、どうする？

雅人 別によね。財産。賃貸だし。

尚之 そうじゃなくて、二人で買ったものとか。もし、別れたときにどうするかってこと。

雅人 さつきから、もやもやしてるんだけど、これって、二人が別れたり、どっちかが死んだ時のことばかりだよ。

尚之 うん。まさかの時に困らないためについて書いてあったじゃん。

雅人 そうだけど、なんだかへんなかんじ。

尚之 まあ、一応つくっておけばいいんじゃない。

雅人 じゃあ、次。浮気について。浮気はお互いにしないこととする。罰則も決めていいんだよ。もし違反した場合は、どうする？

尚之 あのさ、それっている？

雅人 一応つくっておけばいいんじゃない？ もちろんしないけど。する？

尚之 しないしない。しないけど、いる？

雅人 いるよ。絶対に。

尚之 なんだか、かなしいな。

雅人 なによ？

尚之 なんていうの、お互いが信用し合って、新しい生活を始めようっていうのにさ。

雅人 浮気するんだ？

尚之 しないよ。

雅人 じゃあ、いいじゃん。

尚之 俺ってそんなに信用ないわけ？

雅人 うん。

尚之 かなしいな。俺は信じてるのにな、雅人のこと。

雅人 ありがとう。じゃあ、浮気はしない。もししたら、別れる。まあ、そんなことはないと思うけど。

尚之 ばれなければいいっていうのはどうかな？

雅人 何言ってるの？



尚之 わかんないじゃん。どうなるかなんて。あんまり、厳しいきまりにすると、息苦しくなつて、かえつてうまくいかなくなるんじゃないか？

雅人 それつて、適当に浮気しても何となくないことにして、仲良くやっついこうつてこと？

尚之 そうそう。それが、長続きの秘訣なんじゃないの？

雅人 意味がわからない。意味がわからない。

尚之 俺は、雅人と末永く一緒にやっていきたいと思ってるんだつて。ほんとうに。

雅人 今、誰かいるわけ？

尚之 いないいない。

雅人 行政書士の人は？

尚之 え？

雅人 こないだスマホ忘れたとか言つて、なかなか戻つてこなかった。

尚之 何言つてんの？ つまんないこと気にするねえ。

雅人 だつて、もろタイプじゃん。違う。

尚之 違わないけど、そんなことするわけじゃないじゃん。

雅人 わかつた。じゃあ、浮気はしない。したら、別れる。それでいい？

尚之 いいよ、わかつたよ。じゃあ、そのかわり、俺からも一ついい？

雅人 うん、何？

尚之 お互いのスマホはのぞかない。

雅人 のぞかないよ。そんなことまで？

尚之 だから、まさかだけどき。

雅人 もし、のぞいたら？

尚之 別れる。

雅人 わかつた。いいよ。じゃあ、次。

尚之 あ、ちよつとひとやすみしない。煙草吸つてくるわ。

尚之、出て行く。

雅人、二人がいたベッドから、計馬の事務所へ。

計馬もやつてくる。

雅人 寝てる間にスマホのぞいたら、出会い系のアプリでなんだかやりとりしてて。

計馬 公正証書に書くんじゃないの？

雅人 まだ提出してないからいいんです。やっぱり、浮気はばれなきゃしてもいいつてことにした方がいいんですか？

計馬 えーと、僕は書類の作り方についてのアドバイスはするけど、内容については二人で話して決めてもらわないと。

雅人 なんだかわからなくなつてきて。何がしたいんだろうつて。

計馬 下島さんと話し合うことだね。

雅人 そうなんですよね。

計馬 同性パートナーシップ申請して、お父さんを見返してやるんじゃないの？ あ、それは一番目的じゃないか。

雅人 先生は家族に話してます？

計馬 親父もういないんで。五年前に死んで。母親にもまあ、いいかなって。

雅人 こんな仕事してるのに？

計馬 まあね。なかなか機会がなくて。別にちゃんと話さなくてもなんとかなってるんで。誰もがみんなカミングアウトするべきってわけでもないから。

雅人 もし生きてたらって考えます？

計馬 そうだね。生きてたら、ネットで知って、怒り狂ってたかもしれない。でも、それならそれでよかったんじゃないかって思うんだよね。

雅人 話しておけばよかったって？

計馬 いや、そうじゃないんだけど。何かし残したことあるような気がして。喧嘩してもいいから、もつと話しておけばよかったなって。まあ、思ったりするんだよね。

雅人 喧嘩してもいいからか……

計馬 とにかく、二人でじっくり話してみることだね。十一月一日の申請に間に合わせるなら、あまり時間ないけど、

雅人 中野友理さんに言われたんです。

計馬 え、中野さん？

雅人 ここに来る前に話してたんですけど。

中野友理が登場。

友理 二人で話せば話すほど、お互いの違いが見えてくる。そういうもんなんだって。でもさ、長く付き合っていくってことは、その違ってるところも含めて好きになるってことなんだから。

雅人 そういうもんですか？

友理 そうそう、あんたまだ若いからぴんとこないだろうけど。好きになるっていうか、認めるっていうか、あきらめる？

雅人 あきらめちゃうんですか？

友理 でも、その方がおもしろいんだって結局は思えるようになるから。だって、赤の他人だよ。何もかも同じだったら気持ち悪くない？ 考えることが全部わかったら退屈だよ。だから、二人で書類作りながら、ああ、こんなところが違うんだ、これは楽しみだなって、思っていればいいんだって。じゃあね！

友理、退場。

雅人 そうは言われても、どうしていいかわからなくて、こちらに伺ったわけです。

計馬 なるほど。まあ、もつともな意見だけど、むずかしいよね。でも、そうなれたらいいのかな？

雅人 先生もそう思います？

計馬 まあね。むずかしいけどね。

雅人 わかりました。もつとちゃんと話してみます。

計馬 だいじょうぶ？ 全然役に立ててないと思うけど。

雅人 話聞いてもらって楽になりました。ありがとうございます。じゃあ、行きます。僕が来たことは尚ちゃんに内緒にしておいてもらっていいですか。

計馬 わかりました。

雅人 お手洗いお借りしていいですか。

計馬 どうぞどうぞ。

雅人、奥へ退場する。

玄関のチャイムの音。

計馬 はい。

玄関に退場。

尚之と一緒に戻って来る。

計馬の声 えーと、今、ちょっと取り込んでるんで、またにしてもらえませんか。

尚之 やっぱりもう一度会って話がしたくて。

計馬 じゃあ、手短かにお願いできますか。

尚之、腰を下ろす。

計馬 なんででしょう？

尚之 公正証書つくるのもめてて。

計馬 ああ、そうですね。

尚之 浮気はしてもいいかどうかって。

計馬 ああ、大きな問題ですね。

尚之 それで先生にお願いがあるんだけど。このあいだ話したこと、忘れてもらえるかな。

計馬 このあいだ話したことって？

尚之 あれ人違いだったんだよね。俺の勘違い。先生じゃなかった。そいつから連絡来て。

計馬 ですよ。そうですね。よかった。

尚之 それで、これからのことなんだけど……

計馬 なんですか？

尚之 今までのことは今までのこととして、これからのこと考えてみようかって。

計馬 あの、どういうことですか？ もしかして……

尚之 浮気はしない。そういうふう決めてみようかなって思ってる。

計馬 ああ、そうですね。それはよかったです。でも、なんで僕に？

尚之 いや、先生、もしかしてその気になっちゃってたら悪いなと思って。

計馬 だいじょうぶです。心配してもらってありがとうございます。

奥から雅人が登場。

雅人 尚ちゃん！

尚之 何、お前、何してんの？

雅人 話は全部聞かせてもらったよ。

尚之 ええ？

計馬 公正証書のことと相談に見えてたんです。

雅人 じゃあ、これでだいじょうぶだね。

尚之 ああ。

雅人 それじゃ、また書類つくって持ってきますね。

計馬 はい、お待ちしてます。

玄関のチャイムの音。

計馬 はい。

計馬、玄関へ。

祐治と一緒に戻ってくる。

祐治（尚之と雅人に）あ、すみません。お邪魔して。

尚之 いえ、もう失礼するところなんで。（雅人に）行こう。

雅人 ありがとうございます。

計馬 どういたしまして。

尚之と雅人、退場。

祐治 お客さん？

計馬 同性パートナーシップ申請の依頼。

祐治 そうなんだ。

計馬 何、突然？

祐治 独立したってウェブで見て。

計馬 何、検索してくれたんだ、僕の名前。

祐治 ゲイの行政書士って、そういうことにしたんだ？

計馬 まあね。

祐治 どうしてる？

計馬 ゲイの行政書士してるよ。そっちは？ 実家継いだの？ お父さんは？

祐治 親父は死んだ。実家は、支配人やってた人間が継ぐことになって。俺は取締役だけど、東京にいてもいいことになって。

計馬 じゃあ、東京にいたのずっと？

祐治 ああ。

計馬 それで何？

祐治 元気にしてるかなと思って。

計馬 電話すればよかったのに。メールでも。

祐治 いや、未練はよくないなと思って。

計馬 未練なの？

祐治 いや、期待させたらいけないなと思って。

計馬 何それ？

祐治 あんなふうに別れて、やっぱり気になって。いろいろ考えて思ったんだ。やっぱり無理だった。

計馬 ……。

祐治 ゲイの行政書士なんだあつて。

計馬 ねえ、ちよつと待ってよ。

祐治 俺は、そういうことあまり大っぴらにしたいくないから、今までもこれからも。もしやり直してもお互いよくないんじゃないかって。

計馬 そうか。そうかもね。わざわざ言いに来てくれなくてもよかつたのに。

祐治 気にしてるかなと思ってさ。

計馬 自分と全然違うからやってけるっていうふうには思わない？ 思わないか。

祐治 元気そうでよかった。仕事もうまく行ってるみたいだし。じゃあ、行くわ。

計馬 じゃあね。

祐治、出て行く。

計馬 自分のことより、人のこと。そう、それが仕事。さて、下島さんと塚田さんは、話し合いを続けて、なんとか書類をつくりあげ、無事申請を終えることができました。

2015年11月5日、渋谷区では一組、世田谷区では七組のカップルが証明書、あるいは宣誓書受領証を受け取りました。雅人くんは、お父さんの前で証明書を読み上げたそうです。

雅人と尚之が登場。

雅人（読む）渋谷区パートナーシップ証明書。下島尚之、塚田雅人、上記両名は、渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例第10条第1項の規定により、パートナーシップの関係であることを証明します。平成27年11月5日。渋谷区長、長谷部健。（読み終えて）そういうことだから、結婚したんで。

尚之 パートナーシップの関係っていうのが、日本語としてどうかと思うんですけど。

雅人 結婚ってことで。

尚之 うん。

二人、退場。

計馬 さて、2016年秋までに、三重県伊賀市、兵庫県宝塚市、沖縄県那覇市で同様の取り組みが始まっています。僕の仕事は相変わらず。ゲイの行政書士として、仕事を始めて一年。いろいろな相談を受けるようになりました。一方、プライベートはあまり変化がありません。いや、あるのかな。プライベートとか仕事関係とか。そうだ。平日を休みにして、土日を営業日にしました。相談に見える方も、その方が

いいし。今言ったように、僕は土日を優先しないといけないプライベートがあるわけでもないの。そんな土曜の午後です。

場面は、御子柴原田司法行政書士事務所。  
御子柴恭子、中野友理、原田菜摘子がデスクを囲んでいる。  
土曜日の午後。

御子柴 原田くん、ごちそうさま。おいしかった、モンブラン。

友理 いつもありがとね。ほんとグルメだね。

菜摘子 甘い物大好きなんです、昔から。(計馬に) 食べてばかりだと太るよ。何か運動しないと。

御子柴 たしかに、ちよつとあぶらがのつてきたかも。

友理 でも、そのくらいの方がもてるんじゃないの？ よく聞くよ。中途半端が一番よくないって。

計馬 ほつといてください。こうして、みなさんの毒舌にさらされて太ってる暇ないです。御子柴、菜摘子、友理 何それ？！

計馬 中野さん、今日はなんですか？

友理 あ、そうだった。引越したの。だから、書類一式作り直さないといけないんじゃないかと思つて。それと、やっぱり世田谷の同性パートナーシップ宣誓しようと思つて。

計馬 そうですか。住所変更の届けを出せば大丈夫です。つくりなおさなくても。それと世田谷は本人確認書類だけ用意してもらえば。方針変更ですか？

友理 まあね、英子の子と一緒に暮らすことになって。大学生の女の子。うちの雄太も中学、登校拒否になったりして。実体だけじゃなく、形としてもちゃんとしておこうかなって。

御子柴 だいじよね。

友理 そう、気持ちの問題だけど、そうした方ががんばれるかなって。

御子柴 たしかに。

友理 なつちゃんとはどうするの？ その後、どうなった？

菜摘子 あ……

計馬 お前、いるのかそういう相手？ なんだよ、言ってくれたっていいじゃないか。

菜摘子 何かあったら、その時はお願いするから。今はいいんで。

計馬 そうか。そうなのか……

菜摘子 なに？

計馬 いやあ、感慨深いよ。なに、みんな知ってるの？

御子柴 まあ、一応は。

計馬 なんておれだけ？ どんな人、いつから？

菜摘子 ああ、めんどくさい。お兄ちゃんはどうなの？

計馬 俺は何もないよ。(御子柴と友理に) ねえ。

御子柴・友理 うん。

友理 まあ、言わないだけで何してるかは知らないけど。

御子柴 大人だしね。

菜摘子 お兄ちゃんにパートナーができたなら、私も紹介する。

計馬 それはいつになるかわからないぞ。

菜摘子 パートナーシップ申請のプロがいいのそんなで？

計馬 いい。そう決めたんだ。だから、教えてくれよ。

菜摘子 もう……

玄関のチャイム。

計馬 はい。

御子柴 来客の予定あったかな？

計馬 飛び込みのお客さん、大歓迎ですから。

計馬、玄関へ。

稲葉祐治と西村悟と一緒に戻ってくる。

祐治 あ……

菜摘子 あれ、もしかして……

計馬（さえぎって紹介する）えーと、妹です。それから、この事務所一緒にやってる御子柴さん、それから相談に見えてた中野さん。

御子柴、菜摘子、友理 どうも。

祐治 えーと……

計馬 古い友人の稲葉さん。（西村を見て）そちらは……

悟 あ、西村です。

計馬 西村さん。

御子柴、菜摘子、友理 どうも。

御子柴 じゃあ、出かけてくるかな。

友理 そうね、じゃあ、なっちゃん、買い物付き合ってもらっていい。大学生の女の子が気兼ねなく受け取ってくれそうなもの探したいんだ。

菜摘子 私でよければ。

友理 それじゃ……

三人、祐治と悟を気にしつつ出て行く。

祐治 急に来て、すまない。

計馬 いいよ、気にしないで。まあ、座ってよ。

祐治 ああ。

祐治と悟、椅子に腰を下ろす。

計馬 それで何？

祐治 前に言ってた、あれ、同性パートナーシップ申請。あれ頼みたいと思って。

間

計馬 えーと、二人で？

祐治 まあ、そういうこと。

計馬 どうしたの？ 前は絶対無理だつて言ってたのに。

祐治 まあ、いろいろあつて。

計馬 いろいろ？

祐治 それで、仕事として頼みたいと思って。

計馬 それだったら、他の行政書士紹介するよ。

祐治 頼むよ。お前に頼みたいんだつて。

計馬 断る。(悟を気にして) 申請するのは、渋谷？ 世田谷？

祐治 世田谷。

計馬 だったら、行政書士がかまなくても、本人確認書類用意すれば、受け付けてくれる。  
難しいことない。

祐治 それができないんだよ。

計馬 どうして？

悟 ないんです。その、確認書類が。

計馬 え？ 免許証は？

悟 持ってないです。

計馬 パスポート？

悟 ないです。

計馬 じゃあ、保険証？

悟 持ってません。

計馬 じゃあ、住民票？

悟 とれなくて……

計馬 住民票がとれないつてどういうことですか？

間

祐治 若い頃に家を出て、住民票移さないまま、あちこち引っ越してたら、実家の親が二人とも亡くなって、それ知らないで何年も経ったら、削除されてたつて。

計馬 職権削除？

祐治 ああ、それ。実家があつた役所に行ったんだけど、話にならなくて。

場面は、北関東の市役所の窓口。

職員1がやってくる。

職員1 えーと、ご本人確認できるものをお持ちでしょうか？

悟 あの、それがないんで、住民票と戸籍謄本を取りたいんですけど。



職員Ⅰ えーと、住民票の写しを申請するには、本人確認書類が必要です。銀行のキャッシュカードだけではどうにも。すみません。

祐治 じゃあ、どうすればいいんですか？

職員Ⅰ そうですね。以前の住所がわかるものをお持ちいただくとかですね。

悟 もう十年以上前なので、何もないんです。

職員Ⅰ こちらはとしては、探してみてくださいとしかお願いできないですね。すみません。

職員Ⅰ、退場。

計馬 それはおかしいって。なんとかなるはずだよ。

祐治 それがだめだったんだって。人に聞いたら、そういうことは行政書士に相談してみたらって。だから、相談に来た。頼むよ。

悟 お願いします。

祐治 ……。

御子柴がやってくる。

御子柴 やったげなさい、原田くん。

計馬 御子柴さん。

御子柴（悟に）ご実家はどちらです？

悟 群馬です。前橋の近く。

御子柴 出張の実費がかかりますけど、かまいませんか？

祐治 それは全然。

御子柴 それでは、一緒に行ける日を相談させてください。

祐治・悟 はい。

計馬 御子柴さん。

御子柴 仕事よ、仕事。

計馬 ……わかりました。

御子柴 戸籍謄本と住民票取得の手数料と交通費等の実費、それから同性パートナーシップ宣誓の相談料の見積りをお出ししますね。

祐治 はい。

御子柴、奥へ退場。

計馬（スマホのスケジュールを確認して）じゃあ、来週の火曜日はどうですか？

祐治 いいよ。

悟 だいじょうぶです。

計馬 じゃあ、三人で行きましょう。前橋なら高崎まで新幹線ですぐなので、さくつと済ませましょう。おまかせください。

悟 よろしくお願いします。

祐治と悟、退場。

御子柴 彼が結婚寸前まで行った……？

計馬 いいえ、違います。四年も付き合ってた喧嘩別れした彼と一年そこそこのつきあいで結婚しようとしている彼の今彼です。

御子柴 引きずってる？

計馬 全然。だから、受けたんじゃないですか。もう全然です。

祐治が戻ってくる。

祐治 あの……

御子柴 どうされました？

祐治 先に言っておいた方がいいかと思っただけど、実は、あいつ親から虐待受けてて、それで家を出たって。

計馬 虐待ってどんな？

祐治 聞いたところじゃ、男らしくないとか、そういうことで。自分はそうなんだって言うつたら、余計に……。

計馬 ……。

祐治 そういう事情があつて、こんなことになってるんで悪い印象持たないでほしい。

計馬 わかったよ。

祐治 それじゃ。

祐治、出て行く。

御子柴と計馬、顔を見合わせる。

御子柴、奥へ退場。

計馬 さて、翌週の火曜日になりました。朝から出かける約束だったんですが、朝早くに大きな地震があつて、新幹線が止まってしまいました。

祐治が登場。電話で話す。

祐治 困ったな、どうしよう？

計馬 ダイヤ回復するまで、まだ時間かかるみたいだけど、どうする？ 車出してもいいけど。

祐治 ああ、そうしてもらえると助かる。

計馬 じゃあ、事務所まで来てもらえるかな、9時ということで。

祐治 わかった。

祐治、電話を切って、退場。

計馬、事務所の椅子を片づける。

車の用意をする。

悟がやってくる。

悟 すみません。稲葉さん、仕事が抜けられなくなってしまつて。悪いけど、二人で行つて来てくれたって。

計馬 さつき何も言つてなかつたのに。あいつ逃げたな。

悟 どうしましようか？

計馬 決めてもらつていいですよ。どうします？ 別の日にしますか？ 二人で行きますか？

悟 今日お願いします。

計馬 じゃあ、乗つてください。

悟、後部座席に乗ろうとする。

計馬 どうぞ前に。

悟 いいです。こつちで。

計馬 わかりました。

悟が後部座席に座つて、計馬、車を運転していく。

計馬 (客席に向かつて) 道々、話を聞こうと思つてたんですが、なんとなく話しづらくなつてしまつて、それでも、必要なことは聞いておかないといけないわけで。(悟に) 家を出たのはいつですか？

悟 20年前になります。

計馬 高校を出てから？

悟 浪人中に。

計馬 それから一度も。

悟 はい。

計馬 ご家族と連絡を取られたりは？

悟 母親とは年に一度くらいは電話で話してたんですけど、留守電に入れても返事がなくなつて。そのうちにならなくなつてしまつて。手紙も戻ってくるようになって。

計馬 引越しをされたんですかね。

悟 たぶんそうだと思います。それが十年以上前です。

計馬 そうですか。

問

悟 僕のことどう聞いてます？ 稲葉さんから。

計馬 特に何も。今日、いろいろ聞かせてもらつつもりでした。

悟 すみません。

計馬 いいですよ。

問

計馬 稲葉さんとはどこで知り合ったんですか？

悟 2丁目のバーで。

計馬 へえ、そうなんだ。飲みに出たりするんだ。

悟 別れてから飲みに出るようになったって言っていました。先生とは仕事の関係だつて聞きましたけど。

計馬 そう。前の事務所でね、総務担当で許可の申請の相談に来たりしてつて、何そんなこと話してんの？

悟 二人ともオープンにしてないですよ。どうやって？

計馬 大勢で飲んだ後、向こうがつぶれて、家に泊まって、まあ、なんとなく。

悟 そうだったんですか。

計馬 言つとくけど、先に手出てきたのは向こうだからね。

悟 はい。わかりました。

計馬 それと、先生つて言うのやめてもらつていいかな。

悟 じゃあ、なんて呼べば？

計馬 何でもいいですよ。

悟 じゃあ、計馬さん。

計馬 はい。それで、ご実家の住所が載ってるもの、それとあなたの名前が載っているもので、何か持つてきてもらえましたか。さっき言つてた戻つてきた手紙とかでもいいんです。

悟 実家の住所のものはないんですけど、僕の名前が載っているものなら、キャッシュカード、携帯の請求書くらいですけど。

計馬 それでいいです。正確な住所は覚えてますかご実家の？ 本籍地も。

悟 はい。たぶん。

計馬 じゃあ、それでなんとかしましょう。そうだ、ご両親が亡くなっていたのはどうやって？

悟 この間、役所に行ったついでに実家に立ち寄つてみたら、違う人が住んでいて、近所の人見つけて聞いたら、父も母もずいぶん前に亡くなつたつて。

計馬 そうですか。それは……。着いた。じゃあ、行きましょうか。

悟 はい。

二人、車を降りる。

そこは前橋市役所。

計馬（窓口で）すみません。

職員2がやってくる。

職員2 はい。

計馬 戸籍謄本を請求したいんですが、本人確認の書類がなくてですね。

職員2 どんなものでもいいので、何かないですか？

計馬 銀行のキャッシュカードはあるんですが。

職員2 保険証は？

計馬 無保険なんです。免許等ありません。

職員2 それはちよつとむずかしいですね。

計馬 あの、私、行政書士をしています。原田といいます。

計馬、名刺を出す。

職員2、受け取る。

計馬 事情があつて、実家を離れているうちに、実家が引越してしまつたようで。

以前、本人が伺つた際にも、本人確認資料がないとどうにもならないと突っぱねられたように。

職員2 そういうきまりになっていますので。

計馬 じゃあ、どうすればいいんですか？ この人は一人つ子で親戚もいないんですよ。

免許やパスポートを取ろうとしても、本人確認ができないからどうにもならないんです。どこに行つても本人確認本人確認つて。そういう場合の救済措置は認められていないんです。過去の住所地と本籍地、それと本人名義のカードと携帯の請求書を持参しています。これでどうにかならないですかね。

職員2 私の一存では……

計馬 あなたと話してもしょうがない、上の方をお願いします。

職員2 わかりました。それで、ご本人は？

計馬 この人です。

悟 (頭を下げる) どうも。

問

職員2 西村くん？

悟 え？

職員2 西村くんだよ。私、西高の宮内です。宮内由起子。

悟 宮内さんつて、合唱部の？

職員2 そうそう。ひさしぶり。

悟 みーやだ。

計馬 何、知り合い？

悟 ええ。高校時代の。

計馬 じゃあ、話が早いじゃないですか。本人だつてことは間違いないでしょ。戸籍謄本と住民票を。

職員2 やだ、20年ぶり？

悟 そうだねえ。あれ、この間はいなかつたよね。

職員2 本人確認ができないつて話、西村くんだったんだ。私、ちょうど休んでて。娘が熱出しちゃつて。

悟　へえ、お母さん？

職員2　まあね、まだ小学生なんだよ。

計馬　あの、お願いできるんでしょうか？！

職員2　すみません。お持ちいただいたものを一式提示していただけますか。写しを取りますので、それとご実家の住所と本籍地を正確に書いたものをお願いします。

計馬（書類を出して渡す）　こちらに用意してあります。

職員2　お預かりします。少々お待ちください。

職員2、奥へ退場。

悟　ありがとうございます。

計馬　友達？

悟　ええ、一番仲が良かった女子です。

職員2、戻ってくる。

職員2（計馬に）　戸籍謄本お出しできます。

悟　よかった。

職員2　住民票はどうされますか？

計馬　住民登録が抹消されているようでしたら、戸籍謄本と戸籍附票をお願いします。現住所で住民登録をしますのです。

職員2　わかりました。西村くん、すぐに帰る？　もうじきお昼だし、少し話さない？

悟　えーと……

計馬　僕ならいいんで、どうぞゆつくりしてください。

悟　すみません。

計馬　それじゃあ、1時に駐車場で。

悟　はい。

職員2と悟、退場。

計馬（電話をかける）　あ、もしもし、御子柴さんですか、ちょっと確認したいことがあるんですけど……

計馬、話しながら退場。

反対側から悟と職員2が登場。

ベンチに腰をかける。

職員2　ねえ、覚えている？　30歳になって二人とも結婚してなかったら、結婚しようかって話してたこと。

悟　覚えてる。偽装結婚でいいからって。

職員2　そうそう。私、覚えてたけど、結婚しちゃった。

悟 よかったじゃない。

職員2 うん。西村くんは、どうしてるの？ 今もずっと、その……

悟 うん。僕はゲイだから。

職員2 変わってないんだ。

悟 変わらないね。

職員2 この頃、そういう人増えたじゃない。増えたっていうか、よく聞くじゃない。LGBTとかって。そのたび、西村くんのこと思い出してた。どうしてるかなって。

悟 やめてよ。

職員2 どうしてた？

悟 浪人中に父親ともめて、家飛び出して、いろんな仕事してた。

職員2 今はどうしてるの？

悟 派遣の仕事、とりあえず。身分証明何もないから、どうしようもなくて。

職員2 そうか。

悟 でも、結婚するんだよ。

職員2 女の人と？

悟 ううん、男の人。

職員2 できるの？ あ、そうか。

悟 うん。男女の結婚と全部同じってわけじゃないけどね。

職員2 聞いたことある。そうか、そうなんだ。おめでとう。

悟 ありがとう。

#### 問

職員2 もう時効だと思うから本当のこと言うね。偽装結婚でもいいからって言ってたけど、ほんとうは私、西村くんのが大好きだった。そういう人だっかってわかってたけど。言っちゃった。

悟 知ってた。

職員2 そうなの？

悟 うん、ごめん。知ってたけど、知らないふりしてた。

職員2 そうか……

悟 どうしたの？

職員2 よかったなと思って、また会えて。

悟 うん、僕も。

職員2 何言ってるのかしらね、いいトシして。

悟 お互いに。

二人笑っている。

計馬がやってくる。

悟、立ち上がる。

計馬 ああ、まだいいんで。それで、今、御子柴に確認したんですけど、戸籍が復活する

と、相続の問題が発生するかもしれないって。もし、相続する財産が何もないと思われるようでしたら、相続放棄の手続きをした方がいいのではないかと。もし大きな負債があったりするといけないので。どうされますか？

悟 家も賃貸だったので財産といっても何もないと思います。放棄してしまつていいです。

計馬 わかりました。手続きが代行できるのは司法書士なんですけど、本人でもできる手続きなので、もしよかったら、これから家庭裁判所に行つてみてはどうかと。

悟 わかりました。

職員2 じゃあ、私も行くわ。またね。おしあわせに。

悟 じゃあね。

職員2、去つて行く。悟、見送っている。

計馬（客席に） こうして私たちは、市役所につづいて、家庭裁判所へ行き、相続放棄の手続きを終えたのでした。（悟に） お疲れ様でした。じゃあ、帰りましょうか。

悟 あの、ちょっと寄りたいたいところがあるんですけど、いいですか？

計馬 どこです？

悟 この近くに墓地があるんで、ちょっと寄つていけたらと思うんですけど。

計馬 いいですよ。行きましょう。

二人歩き出す。場面は墓地に変わる。

夕方になつている。

悟、墓石を一つ一つ見ていく。

悟 あ、ここだ。

悟、黙つて立っている。  
長い間。

悟 計馬さんは、いつから自分はそうだつて知つてました。

計馬 僕は中学かな。体育の着替えをするときにドキドキしてる自分に気がついた。

悟 僕は小学五年です。いじめられてたんですよ。女みたいだつて。でも、僕のこといじめてるやつのが好きになつてしまつて。もうよくわかんないんですけど。

計馬 そういうもんですよ。

悟 男らしくなれて、父親に柔道を習わされました。いやだった。いつまでも進級しなくて。本当は違う習い事がしたかったのに。塾にも行きたかったしピアノだつて習いたかった。でも、やめさせてくれなかった。父は柔道の有段者だったんです。酔つ払うと本気でわざをかけてきて。僕が組み伏せられると、そんなことでどうするって。大人と子どもなのに。いやだった。母親に友達がいなくなるって必死に頼んで、ようやく柔道をやめて、塾に行かせてもらったんです。でも、ほんとうは違う。家にいたくなかつたから。母親に話したんです。ちょうど90年代初めのゲイブームの頃。僕



は男の子のことが好きなんだって。そういう人間なんだって。母親は驚いてましたけど、しかたないって。父親には言わないようにって。でも、ある日、酔っ払った父親に殴られて言っちゃったんです。僕はゲイなんだって。男らしくなんかなりたくないって。それがどうしたって、直せるはずだ、直せ、直してやるって。その後のことはよく覚えてません。知り合つてすぐにこんな話聞いてもらうの変ですよ。ごめんなさい。でも、今、ここで話しておきたくて。

計馬 いや、いいよ。

悟 父が死んだ翌年に母が亡くなったんですね。一人でどうしてたのかな？

計馬 ……。

悟 母親にカミングアウトしたとき、僕言つたんです。もう一人産んでおけばよかったのにつて。母は少し笑つて聞いてたと思います。

間

悟 じゃあ、行きます。

計馬 はい。

悟 さようなら。また、来るから。

悟、退場。

計馬、事務所へ椅子を並べ替える。

場面は変わつて数日後の午後。

祐治がやつてくる。

祐治 そういうわけで、同性パートナーシップ宣誓はしないことになった。

計馬 別れたの？

祐治 別れてないよ。でも、まだいいんじゃないかって。でも、公正証書はつくるから。

計馬 え？

祐治 世田谷で申請はしないけど、今後のために、結婚合意契約書と後見人契約書だつて。

計馬 なんで？

祐治 そうしたいって言うから。だから、また仕事の依頼。頼むよ。

計馬 別の行政書士紹介する。

祐治 まだ気にしてんの？ 俺は全然気にしてないぞ。

計馬 だからだよ。

祐治 金ならちゃんと払うって。

計馬 当たり前だ。じゃあ、仕事として、引き受けるよ。

祐治 頼む。

計馬 西村くん、どうしてる？

祐治 就職活動。あと保育士の試験受けるって。

計馬 保育士？

祐治 夢だつたんだって。何年かやつてたこともあるんだって。

計馬 物入りだね。そうだ、健康保険、ずっと払ってなかったから、まとめてくると思う

よ。

祐治 ああ、役所で保険の手続きしたらそんなこと言われた。

計馬 だいじょうぶ？

祐治 うん、まあなんとか。親父が死んで、遺産が少し入ったんだ。

計馬 へえ。

祐治 そうだ。遺言状もつくった方がいいのかな。財産のこととか。

計馬 財産って？

祐治 マンション。

計馬 買ったの？

祐治 うん。今度遊びに来てよ。

計馬 名義は？

祐治 俺だけ。

計馬 二人で住んでるんなら、共同名義にしといた方がラクだよ。親戚多いから、もめると大変だし。

祐治 そうなの？

計馬 まあ、好きにすればいいけどね。よろしかったら名義変更の手続きも私どもでさせていただきますよ。

祐治 感謝してる。

計馬 仕事だからね。そうだ、実家ではまだ何も言っていないわけですよ。いいの、そんなことして。

祐治 うん、考えたんだけどさ。いろいろ問題になったとき、おれはもう死んでるんだって気がついたんだ。死んでからばれたって別にかまわない。それより、生きてる人間が大事だつて。そうだろう。

計馬 うん。

計馬、祐治を見ている。

計馬 西村くんとつきあつたのはなんで？

祐治 ええ？

計馬 教えてくれたっていいじゃん。

祐治 なんだかほっとけなくてさ。

計馬、笑い出す。

計馬 ああ、そうか。そうだったんだ。納得した。別れてよかったわ。ほっとけないとか絶対に言われたくないし。ほっといてほしいから。

祐治 じゃ、そろそろ行くわ。今度は二人で来るから。じゃあ。

計馬 じゃあね。

祐治、退場。

御子柴がやって来る。

計馬 御子柴さん、NPO作ろうと思うんですけど。

御子柴 うちの法人化なら進めてるけど、他に？

計馬 ええ。同性カプルの相談に乗ったり、老後を一人で生きている人たちのサポートをする団体です。法人として任意後見契約をむすんで、入院に際しての身許引受人になったり、亡くなった後の事務委任契約で遺言執行や死後の事務を請け負ったりする。

御子柴 いいんじゃない。やってみたら。

計馬 協力してください。

御子柴 考えておく。まずは自分のことより人のことね。

計馬 でも、結局、自分のことですから。

御子柴 なるほど。

御子柴、退場。

計馬 2017年になって、NPO法人の設立が認められました。法人名は、「ノットアローンプロジェクト」。「ノットアローン」一人じゃないってことです。「ひよつこりひよつたん島」って人形劇あつたじゃないですか。世代的にはかなり上なんですけど。その中に「ひとりじゃない」って歌があつて、大好きなんです。あ、それはそれとして、みんな一人じゃないことをめざすっていうか、ささえあう、そんな取り組みをするNPOです。老後のライフプランニングのためのセミナーやワークショップも開催したりします。そんな2017年が始まって4月に親父の七回忌がありました。まあ、無事に済んだと思つてたんですけど、そうでもなくて……

美幸と菜摘子がやってくる。

美幸がやってくる。

菜摘子 なんなの？ 急に呼び出して。

美幸 ちよつと座つて。あんたも。

計馬 なに？

美幸 あんたゲイの行政書士ってどういうこと？

計馬 それは……、ネット見ちゃった？

美幸 見ました。こないだの法事で所沢のおじさんに言われて。「計馬くん、独立したんだつて。ゲイの行政書士だつて、すごいねえ。最先端だ。スカート履いたりしてるのか、あの体格で」つて。

計馬 なんで、直接言わないかな。

菜摘子 そういえば、なんだかそこそこ話してた。

美幸 何も知らないから、なんのこと？つて聞いちゃったじゃない。ねえ、なんなのゲイの行政書士つて。

計馬 そのまんまだよ。最近、聞くでしょ、LGBTつて。ゲイつていうのは、LGBTのGで……

美幸 そのくらい知ってます。調べたから。そういうことじゃなくて……

計馬 ああ、だから、そうだよ。俺はゲイだから。

美幸 何開き直って……

計馬 だつて、しょうがないじゃん。

菜摘子 よくないよ、そういう態度。

計馬 別に悪いことしてるわけじゃない。

美幸 だつたら、なんでだまつたの？ 悪いことだと思ってるからでしょ。

計馬 そんなことない。

美幸 ホームページに写真まで載せて。どれだけびつくりしたか。

計馬 ねえ、母さんは、俺がゲイだつてことに怒ってるの？ 内緒にしてたつてことに腹を立ててるの？

美幸 両方に決まつてるでしょ！

計馬 いくつか話そうと思つてたんだよ。

美幸 うそです。わたしはね、みんなが知ってるのに、身近にいる私だけ知らされてないつてことが情けないのよ。

計馬 だから悪かつたつて。じゃあ、そういうことで。

菜摘子 お兄ちゃん。もつとちゃんと話しなよ。お兄ちゃんなりに考えたつてことだよね。

前にそう言つてた。

美幸 待つて、菜摘子、あんた知つてたの？

菜摘子 あ、はい。

美幸 グルなの、仲間なの？ もういい、もう信じられない。

菜摘子 びつくりさせちゃいけないと思つて、タイミングを考えてたんだよね。

計馬 うん。

美幸 言い訳はけつこうです。もう寝ます。菜摘子はもう帰つてちょうだい。うちに帰つてこないかつて相談するつもりだったけどやめたから。私は一人で生きていきます。計馬はもう、もう、お弁当つくらないからね！

美幸、退場。

計馬 ちょっと……

菜摘子 まだお弁当作つてもらつてんの？

計馬 何かやることないと張り合いがないだろうと思つてさ。

菜摘子 ちゃんとあやまりなよ。

計馬 うん。

菜摘子 あーあ、また遠くなつたなあ。

計馬 いい機会だから一緒に言つちゃえばよかつたんじゃない？

菜摘子 無理。帰るわ。何かあつたら、連絡ちょうだい。

計馬 ああ。

菜摘子 あ、そうだ。私が担当してた利用者さんがね、この間亡くなつただけけど、その人の奥さんに相談されて。その人、息子さんも亡くしてて、身寄りがなくなつただけけど。これからどうしようかと思つてるつて。それで、その息子さん、どうやらゲイだつたみたいで。お兄ちゃんのところ、ネットで見たんだけど、相談に行つてもいい

かしらつて。

計馬 へえ。いいよ。来週、セミナーがあるから来てもらえたら。

菜摘子 わかった。伝えておく。

計馬 なんて人？

菜摘子 伊集院さん。

菜摘子、退場。

計馬 へえ、そんな人がいるんだと思いました。さて、翌週のセミナーの当日。専門の講師を招いて、老後のライフプランニングについての講演とワークショップを行いました。初めての企画。思ってたよりたくさんの人に来てもらえて、やっぱりこういう機会は必要なんだって感じました。

場面は変わって、都内の集会施設。椅子がたくさん。

ノットアローンプロジェクトのセミナーの終了後。

御子柴、祐治、悟、尚之、雅人がやってくる。

御子柴 齋藤先生、お帰りに。

計馬 ありがとうございます。

悟 勉強になりました。やっぱり大事なんです。準備しておくことつて。

計馬 ありがとうございます。来てくれて。

尚之 ちょうど暇だったんで。

雅人 年齢層高かったね。

尚之 まあ、老後の話だからね。

祐治 こんなに大勢いるんだってびっくりしたよ。

計馬 みんなトシはとっていくわけだからね。

雅人 僕最年少だったかも。

美幸、やってくる。

美幸 すみませんね、最年長で。

雅人 そんなことないですよ。

美幸 どうもおじゃまさまでした。

計馬 なんで突然来るかな？

美幸 私もかぎりなくお一人様に近いと思ったんで。

計馬 一緒に住んでるじゃん。

菜摘子が伊集院と登場。

菜摘子 お兄ちゃん、伊集院さん。

伊集院 どうもはじめまして。あ、みなさんも。伊集院と申します。あの、私、夫を亡く

しまして、一人なもので。私自身はその、当事者っていうんですか、そうではないのですけれど、息子が、もう亡くなったんですが、あの、ゲイだったようで、それで、私、原田さんにご紹介いただいて、うかがいました。どうぞよろしくお願いいたします。

計馬 こちらこそ。

伊集院 お話、いろいろうかがって、いろいろ勉強させていただきました。

悟 息子さん、お亡くなりには？

伊集院 もう9年になります。

尚之 おいくつで？

伊集院 28でした。

雅人 なんで亡くなったんですか？

伊集院 それは、あの……、たぶん、自殺じゃないかと。

雅人 すみませんでした。

伊集院 いえ、よくわからないんです。でも、そうじゃないかって。あ、ごめんなさい。

今日はよかったです。いろんな方にお会いできて。また伺ってもいいでしょうか。

計馬 どうぞどうぞ。

伊集院 あの、それで、もしよかったらなんですけど、私、今一人で暮らしています、自宅が事務所だったもので、そこそこ広いスペースがあるので、もしよしかったら、そちらをお使いいただけたらどうかと思うのですが。

計馬 どちらにお住まいですか？

伊集院 世田谷の梅ヶ丘です。もしよろしかったら。

計馬 ありがとうございます。たすかります。あらためてご連絡さしあげます。

伊集院 では、今日はこれで。

美幸 じゃあ、私も。

伊集院と美幸、退場。

御子柴 だいじょうぶかしら？

計馬 くわしく話を聞いてみましょう。決めるのはそれからで。

尚之（雅人に）梅ヶ丘のどのへんだ？ 知ってる？

雅人 今はやってない税理士事務所だったら知ってる。結構、大きな家。

計馬 どんなどころ？

雅人 庭が広くて、ちよつと不気味な感じ。幽霊屋敷みたいな。

一同 幽霊屋敷？

美幸と伊集院が登場。ベンチに座って話し始める。

一同は退場。

伊集院 まあ、ご存じなかったんですか？

美幸 そうなんですよ。もう、大恥かきました。

伊集院 立派なお仕事されてるじゃありませんか。

美幸 でも、わざわざ言うことですか？ その、なんていうか……

伊集院 自分はゲイだつて。

美幸 ええ。全然知らなかった。もうどうしたらいいか。お宅は……、あ、ごめんなさい。伊集院 いいんです。私も全然気がつかなかったんです、言われるまでずっと。ゲイっていう人たちは、なんていうのか、テレビに出てる、女の人みたいな人たちだと思つてたんです。

美幸 そうそう。

伊集院 だったら、わかりやすかつたんですけどね。知らないから。

美幸 お宅もそうだったんですか？

伊集院 ええ、ずっとスポーツしてましたし。仕事も普通に勤めてて、よく酔つ払つて帰つて来たりして。仕事の関係でお見合いの話もあつて、何度かお会いしたこともあつたんですよ。

美幸 なんてわかつたんですか？ あ、ごめんなさい。

伊集院 家を出て、マンションを買つて、一人で住んでたんですけど。電話がありました。部屋に来てくれないかつて。不眠症だつて、眠れないんで、しばらくいてくれないかつて言うんですよ。そんなこと言う子じゃなかったのに。新しく任された仕事うまく行つてないらしくて。会社自体もどうなるかわからなくて、責任がうちの子のしかかつてきたんだと思います。いいから寝なさいってベッドに横にならせて、しばらくそばにいたんです。その時、聞きました。自分はそうなんだつて。

美幸 まあ……

伊集院 私、びっくりしたんですけど、平気なふりしたんです。ああ、そうなんだ。ちつとも知らなかつたつて。しばらくずっと黙つてて、今日は泊まつてつてくれるつて聞かれました。私、具合が悪いようなら泊まるつもりで行つたんですけど、ごめん、今日は帰るわ。大丈夫よね。お父さんには言わないでおくから。そう言つて、帰つてきてしまつたんです。その翌日、電話をもらつて、職場に復帰したからつて。よかつたね。でも、無理しないでねつて言つてたんですけど。一月もしないうちに。何も話さないまま。今でも、あの日、帰らないでずっといればよかつたなあつて思うんですよ。あの子は何を話したかつたんだろうつて。

美幸 そうですか。それは……

伊集院 元気でいるだけいいじゃないですか。立派な方。独立して、法人を立ち上げて、人のために働いている。自慢の息子さんじゃないですか。

美幸 そうでしょうか？

伊集院 違います？

美幸 夫もそうだったんですけど、外面がいいつていうんですか？ 外ではいい人を通つてるのに、うちに帰るとわがままで、こつちの気持ちなんておかまいなしで。そんなところばかり似てるんです。浮気したことがあつて、夫がですよ、親切な人が私に知らせてくれたんですけど、本人からは何も。だから、ずっと知らないふりしてました。死ぬ前に、ほんとは知つてたのよつて言つたら、どんな顔したかと思ひますよ。

伊集院 まあ……

美幸 お話しできて、ちよつとすつきりました。どうもありがとうございます。

伊集院 いいえ、私でお役に立てば。お友達になりましょう。

美幸 こちらこそ。

伊集院 伊集院恵子です。

美幸 原田美幸です。

伊集院 みーちゃん？

美幸 けーちゃん？

二人 よろしく。

二人、退場。

計馬がやってくる。

続いて、祐治、悟、尚之、雅人、美幸、菜摘子、御子柴、それぞれ椅子にかける。

計馬 翌月のセミナーは、伊集院さんの家をお借りすることになりました。塚田くんが言っていたとおり、古い立派な建物。一階の事務所だったスペースで、公正証書と遺言状を作成するワークショップをしました。終了後、軽く打ち上げをしようということになり、外に行くよりはということ、みんなで買い物に行つて準備を始めました。

一同、退場する。

伊集院がやってくる。

計馬 どうもありがとうございました。

伊集院 いいえ、お役に立ててよかったです。

計馬 それで、こちらをお借りしたお礼なんですけど……

伊集院 どうぞお気遣いなく。そんなこちらからお願いしたんですから。

計馬 でも、こういうことはきちんとしてないと。

伊集院 どうぞお気遣いなく。

雅人と尚之がやってくる。

雅人 飲みもの、買ってきました。冷蔵庫に入れます？

伊集院 奥に台所が。私も行きます。

雅人と伊集院、出て行く。

尚之 すごい家だね。幽霊屋敷って言われてるのわかる気がする。

計馬 中野さんに来てもらったなら、何か見えたりするかな？ 最近会わないけど、どうしてるんだろう？

尚之 いろいろ大変みたいだよ。高校受験と就職活動で。

計馬 レズビアンカップルだもんな。

尚之 でも、元気にした。相変わらず。

美幸がやってくる。



美幸 計馬。ちょっと話があるんだけど。  
御子柴 原田くん。

計馬 今、悪いんだけど、後にしてくれないかな。  
美幸 でも……

計馬 まだいるよね。後で。でなかったら、うちでゆつくり。  
美幸 わかった。じゃあ。

美幸、退場。

一同がもどってくる。

手に飲み物のカップなど。

計馬 それでは、今日はお疲れ様でした！

一同 おつかれさまでした！

一同、乾杯。楽しげに雑談している。

計馬 楽しい打ち上げだったんです。伊集院さんがあんなことを言い出すまでは。

伊集院 みなさん、今日は、どうもありがとうございます。ひさしぶりにこの家にもぎやかにあって喜んでいと思います。それで、実は、みなさんにお願いとるかご相談があるんです。おいでいただいたこの家、土地と建物。どなたか受け継いでいただけないでしょうか。

祐治 受け継ぐってどういうことですか？

伊集院 私は一人で、親戚もありません。このままだと誰も相続しないまま、国のものになってしまふ。それはいやなんです。息子はもういませんし、どうせなら、息子と同じ、そのゲイのみなさんのどなたかにお願いできたらと思つて。

一同、びっくり。

伊集院 一緒に住んでくれるだけでいいんです。一人でも、二人でも。先月のセミナーで伺つたように、養子縁組をして、今日のワークシヨップで作つたような公正証書と遺言状を用意します。私の子どもになつてほしいんです。

一同、顔を見合わせる。

伊集院 急な話ですみません。主人が亡くなる前から考えていたことではあるんです。どなたかお願いできませんか？

計馬 急に言われてもすぐに返事はむずかしいですよ。でも、おもしろいかもしれない。そういう家族のようなものが新しく生まれるのは。

尚之 そうかな。ちよつと乱暴じゃない？

計馬 たしかにそうだけど。もし、いいつていう人がいたら、話してみてもいいんじゃない

いかな。

一同、なんとなく困っている。

計馬　じゃあ、この話はまた改めてということ。じゃあ、飲みましょう。

伊集院　それじゃ、やっぱりするしかないですね。

美幸　そうね。

伊集院　話してもいい？

美幸　お願い。

伊集院　養子縁組の話をみーちゃん、美幸さんとしていて、もし、よかつたら、計馬さんを養子として迎えられないかしらってお願ひしたんです。

計馬　ええ？

伊集院　美幸さん、とても同情してくれて、そういうことならつて。なので、計馬さん、お願いできますかしら？

計馬　なんで勝手に決めてるんです。そんなの全然聞いてない。

美幸　話そうと思つても、あんた聞いてくれないから。うちには菜摘子もいるし。

菜摘子　お母さん、そんな……。

美幸　私たち、すっかり仲良くなつたの。同じゲイの息子を持った母親として。力になつてあげたいのよ。

計馬　えーと、大人の養子縁組は、成立したあとでも、元の親の扶養義務はそのままなんです。だから、僕は母親を二人持つことになる。

美幸　いいんじゃない？

計馬　そんなかんたんに。

伊集院　だったら、お母さんに一筆書いてもらえばいいんじゃないかしら。私、原田美幸は長男計馬に扶養の義務を一切負わせないものとするつて。

美幸　書きます、いくらでも。（計馬に）書類あんた用意してくれる？

計馬　ちよつと待つて。はつきり言つておくけど、めんどろみるから。伊集院さんには悪いけど。ずつとそのつもりでいるんで。だから、一緒に住んでる。

美幸　便利だからでしょ？

計馬　それもあるけど、違う。ゲイだつてことずつと黙つてて、ゲイの行政書士だつて、仕事始めたのたまつて悪かつた。でも、いつか、ちゃんと話そうと思つた。これから暮らしていくうちに、いつか。父さんには言えなかつたけど、母さんには話そうつて。だから……

美幸　その話なら、もう聞いたからけつこうです。

計馬　よくない。このままだと、きつと後悔する。今まで、話せないことを抱えたまま、なんとなく暮らしてた。でも、もつとちゃんと話せるはずだと思ふんだ。ちゃんと向き合つて暮らすことが。あと何年一緒にいられるかわからないけど、そういう時間を一緒に過ごせたらと思つてる。だから、そんな思いつきで養子なんてこと考えるのやめてほしい。親子のままできてほしいんだ。

伊集院と美幸、顔を見合わせて笑い出す。

計馬 何？

伊集院（美幸に）気持ちはずみました？

美幸 ええ、とりあえず。

二人、笑っている。

菜摘子 なに、なんなの？

美幸 あんたがあんまり私のことじゃけんにするから、仕返しよ。みーちゃんと話して、

企んでみたの。

雅人 じゃあ、嘘なの？

美幸 ええ。みんな嘘。ごめんなさいね。みなさん。

尚之 もう、おどかさないでくださいよ。

美幸 計馬にはしつかり面倒みてもらうことにしてるから。

計馬 なんだよ、もう。

美幸 今の言葉、ちゃんと録音してあるから。

美幸、ICレコーダーを取り出して見せる。

悟 すごい。

美幸 菜摘子、あんたもよ。

菜摘子 わかつてる。

一同、楽しげにしている。

少し離れて、伊集院がその様子を見ていた。

美幸 けーちゃん、どうもありがとう。おかげでうまくいった。さあ、飲みましよう。

伊集院 私は、別にかまわないんです。ほんとうに計馬さんが私の子どもになってくれても。

間

伊集院 もし、計馬さんと暮らすことができたなら、死んだ息子の分も愛することが出来るんじゃないかと思うんです。話せなかったことを話して、聞けなかったことを聞いて。そうして生きていけたらって思うんです。（計馬に近づきながら）計馬さんに初めてお会いしたときから、うちの子にどこか似ているような気がして。年はちよつと違うけど、きつとあの子もこんなふうにトシを重ねるはず。背の高さ、肩幅、腕、顔も声も、なにもかも……

伊集院、計馬にふれて立ち止まる。

計馬を静かに抱く。

計馬 ……伊集院さん。

一同、見守っている。  
間

伊集院 だいじょうぶです。ごめんなさい。みなさん。この家と土地は私が死んだら、計馬さんのNPOに遺贈することにします。それなら安心、もし、私が認知症になっても、いつか死んでも、その時どうするかをお願いすることにします。それならいいでしょう。

計馬 ええ。ありがとうございます。

伊集院 では、書類の準備を。御子柴さんをお願いした方がいいのかしら。

計馬 僕がやります。

伊集院 日を改めて、ご相談に伺いますね。

計馬 はい。

悟 養子の話なんですけど。

雅人 なに、立候補？

悟 そうじゃなくて、実は、僕たち、里親になりたいと思ってるんです。（祐治に）ね？

尚之 里親？

祐治 うん。悟と同じように、虐待されてる子どもを引き取って育てたいって。二人で話してる。

美幸 できるの、そんなこと？

悟 できます。去年の十二月、大阪市でゲイのカップルが里親と認められました。養子縁組ではなくて、養育里親。親権はもたない育てるだけの親。

菜摘子 それ新聞で読んだ。三十代と四十代の男性カップルだって。子どもがいくつかはわからないんだけど。

悟 里親になる資格は自治体によって違うんだけど。東京では保育士の経験がないといけなくて。去年、試験受けたんだけど、落ちてしまって。今年もう一度受けて、結果を待つてるところ。

祐治 合格してから、児童相談所に連絡して、それからまた大変だとは思うんだけど。

伊集院 前例があるんだから、きっと大丈夫。

美幸 受かるといいわね。

悟 はい。

雅人 じゃあ、打ち上げのつづき。

一同 うん。

一同、退場。

計馬 伊集院さんの幽霊屋敷は生き返りました。みんながしょっちゅう顔を出して話し込んでいく。そんな家になりました。伊集院さんは自宅を子ども食堂として開放して、毎週火曜日を「給食の日」と呼んで、僕たちゲイと近くの子どもたちとの交流スパー

スをつくりました。そこでは、僕たちがゲイだつてことは当たり前で、「オカマ」「ホモ」と呼ぶ子どもには、そういう言い方をすると傷つく人がいるよとやさしく、時に厳しく話をしました。悟くんは保育士の試験に合格して、過去の実務経験の確認がやや面倒だったのですが、里親としての資格は認められることになりそうです。そんなある日、伊集院さんが倒れました。

問

計馬 突然でした。父の時と同じように。僕たちは大急ぎで病院に向かいました。

病院。

一同、登場する。(雅人、祐治、悟、菜摘子、美幸)

医師 ご家族の方？

計馬 後見人です。NPO法人で後見人契約を結んでいます。

医師 お気の毒ですが、手の施しようがなく、脳死状態になっています。延命措置についての意志表示はどのようにされていますか。

計馬 私が委任されています。

医師 延命措置は？

計馬 えーと、延命措置はしないでほしいとのことですが……

医師 そうですか。

計馬 待つてください。えーと、えーと……

医師 状態は変わらないので、ゆっくりお考えください。ご家族の方どうぞ。あ、失礼しました。

計馬 あの家族は……、僕たちみんなです。

医師 それではどうぞ。

一同、医師に続いて奥へ。

計馬が一人残る。

計馬 僕は延命措置の停止を伝えました。伊集院さんの意志ですから。伊集院さんは、旦那さんと息子さんが眠る、墓地に葬られました。季節ごとにたくさんの花が咲く、きれいなお墓に伊集院さんは眠っています。土地と建物の遺贈については、面倒なことになりました。

御子柴がやってくる。

御子柴 NPOに対しての遺贈は、相続税非課税のはずなのに、認められないって。

計馬 なんです？

御子柴 設立して日が浅いのと社会的な認知度と貢献度が足りないって。

計馬 貢献度が足りないってどういうことですか？

御子柴 くやしいけど、そういうこと。どうする。

計馬 どうするって。そんなのひどい。言って、話してくる。

御子柴 わかった。私も一緒に行く。ほんと失礼しちゃう。

御子柴、出て行く。

計馬 結局、訴えは認められず、広い庭をほとんど売って、相続税に充て、建物だけが残りました。

友理がやってくる。

友理 へえ、引越し？

計馬 ええ、ノットアローンプロジェクトはここを事務所にすることにしました。

友理 ふーん、こないだ言ってた養子の話、言ってくれたら、私たち家族、みんなで移り住んだのに。

計馬 あ、そうでしたね。すみません。

友理 でも、いいところ。ちよつと古いけど。

計馬 友理さん、何かかんじます？

友理 え？

計馬 ここ幽霊屋敷って呼ばれてたらしいですよ。

友理 へえ、いないみたいよ。

計馬 そうか、よかった。

友理 いなくなったみたい。

計馬 え？

友理 もういいと思うから話すね。あんたのそばにずっと男の人がいたの。

計馬 まじですか？ うわ……

友理 大丈夫、もういないから。それに、あんたのこと心配してそばにいるんだって。

計馬 誰です？

友理 お父さんみたいよ。

計馬 親父？

友理 でも、もう大丈夫みたいだからいなくなるって、わざわざ言いに来てくれた。義理堅い人ね。

計馬 そうですか。

友理 じゃあね。子ども食堂、復活するのかな？ うちの子、お世話になってたみたいで。

上の子はボランティアしたいって言ってるんだけど。

計馬 はい、その予定です。

友理 そう、じゃあね。

友理、出て行く。

計馬（呼びかける） 父さん。

友理（顔を出して）もういないよ。  
計馬 わかってます！

友理、退場。

計馬 さて、ここからは未来の話。いろんなことが変わったり、変わらなかったり。祐治と悟くんはパートナーシップ宣誓をして、ゲイだからと虐待されていた男の子の里親になることが決まりました。雅人と尚之は付き合っているのかどうかわからないパートナー。そして、菜摘子は自分がレズビアンだということを母にカミングアウトしたのです。

菜摘子と美幸。

菜摘子 そういうことなの。

美幸 ……そう。

菜摘子 おどろかないの？ 怒らないの？

美幸 驚いたけど、怒ってもねえ。あんた変わらないんですよ。

菜摘子 うん。

美幸 わかった、じゃあ、孫の顔を見るのはあきらめる。

菜摘子 それでね、今付き合ってる人、女の人だけど、女の子がいるの。小学校三年生。だから、孫の顔みたいなのは見せてあげられるかもしれない。

美幸 ……そう、会えるの？

菜摘子 会える会える。今度、挨拶に来るから。

美幸 ……楽しみね。

菜摘子 うん。

二人、退場。

御子柴が登場。

計馬 お袋だいじよぶかな。

御子柴 孫的なものがあるだけいいんじゃないやありません。

計馬 なんだかみんなひとりじゃなくなつて、僕たちだけですね。独り者は。

御子柴 私、ひとりじゃないよ。

計馬 え、結婚してるんですか？ 子どもがいる？ そんな、まさか……

御子柴 お先に……

御子柴出て行く、

計馬 さて、ここからはもつと未来の話。未来のいつか。祐治と悟くんが里親として迎えた少年がやってくる日です。

祐治がやってくる。

祐治 まさか親になるとは思わなかったよ。

計馬 ほんとだ。

祐治 誰かが言ってた。人生は生きてみないとわからないって。

計馬 たしかに。

祐治 ありがとう。

計馬 え？

祐治 いや、なんていうか。いろいろと。

計馬 大変なのはこれからだよ。

祐治 わかつてる。

計馬 何か困ったことあったら、相談に乗るから。どんなことでも。

祐治 ああ。

雅人と尚之、菜摘子と美幸、御子柴がやってくる。

雅人 そろそろ来る頃なんじゃない？

尚之 悟くんが迎えに行ってるんだよね。

美幸 遅いわね、どうしたのかしら？

計馬 なんで母さんまで来てるの？

菜摘子 早く会いたいつてきかなくて。

計馬 あんまり大勢で迎えたらびつくりするよ。

祐治 いいよ、これからずっと会うんだから。

御子柴 あ、悟くん。

悟がやってくる。

悟 どうしたの、みんな？

祐治 なんだ一人なのか？

悟 今、ちよつと準備してる。じゃあ、呼ぶよ。

一同 うん。

悟 (少年に向かって) 耕司くん、こつちだ！

少年がやってくる。

一同 やって来る少年を笑顔で見ている。

幕



劇団フライングステージ第43回公演

LIFE, LIVE ライフ、ライブ

二〇一七年十一月八日(水)〜十二日(日)

下北沢 OFF・OFFシアター

作・演出

関根信一

出演

原田計馬

⋮

石坂 純

稲葉祐治

⋮

中 崙 聡

西村 悟

⋮

阪上善樹

下島尚之／医師

⋮

岸本啓孝

塚田雅人／市役所の職員1

⋮

小 浜 洋

原田菜摘子／市役所の職員2

⋮

高木充子

御子柴恭子

⋮

モイラ

原田美幸

⋮

石 関 準

中野友理／伊集院恵子

⋮

関根信一

照明

伊藤 馨

音響

樋口亜弓

衣裳

石 関 準

舞台監督

水月アキラ

フライヤーイラスト

ぢるぢる

フライヤーデザイン

石原 燃

制作

渡辺智也

三枝 黎

協力

株式会社アスタリスク

M・M・P

劇団クレイジーパワーロマンチスト

劇団桃唄 309

CoRich 舞台芸術!

劇団フライングステージ

企画制作